

# 主な実施事業の現状及び課題の仮説整理表

## 重点目標

## I-1 子どもの遊びや体験が大切にされ、主体的に参加し意見表明できる

### 個別目標

- コミュニケーション能力を育てる
- 参加と意見表明の場や機会をつくる
- 救済とやり直しの場や機会を保障する

#### ○現状・主な実施事業等

##### ① コミュニケーション能力を育てる

- ・読書活動の推進を実施
- ・高齢者と近隣保育所の園児等の交流事業を実施
- ・さがまちカレッジを実施
- ・さがまちカレッジで申込者数が定員を下回っているものもあるため、周知方法や内容の検討が必要
- ・活動内容が固定化しているものがある

#### ○現状・主な実施事業等

##### ② 参加と意見表明の場や機会をつくる

- ・子どもセンターおよび子どもクラブの子ども委員会委員数は増加傾向
- ・子どもを対象とした事業のうち子どもが企画運営に参加した割合は減少傾向
- ・子どもセンターの子ども委員会を実施
- ・子ども教育委員会を実施
- ・創作童話コンクールにおいて、参加校に偏りがみられるため、市内全域へのPRが必要

#### ○現状・主な実施事業等

##### ③ 救済とやり直しの場や機会を保障する

- ・教育相談を実施
- ・教育相談件数は増加しているが、相談待機時間が長くなっているため、新たな相談体制の構築が必要

課題の仮説… ○引き続き子どもが幅広い人間関係を形成することができると多様な機会づくりが必要  
○子どもたちが、自分たちのことについて、より主体的に事業等の企画に関わることを促進していくことが必要

# 重点目標

# I-2 大人になっていく力をつける

## 個別目標

- 乳幼児期の養護の充実
- 幼児教育の充実
- 学校教育の充実
- 思春期の子どもの心と身体  
の健康教育
- 体験活動から学ぶこと

### ○現状・主な実施事業等

#### ① 乳幼児期の養護の充実

- ・「愛されている」という感覚を子ども達が確かに持ち、成長に応じた豊かな遊びを享受できる環境を保障されることが必要

### ○現状・主な実施事業等

#### ② 幼児教育の充実

- ・預かり保育実施幼稚園数は増加している

- ・私立幼稚園の預かり保育事業への補助を実施

- ・子ども・子育て支援新制度による制度の変更

### ○現状・主な実施事業等

#### ③ 学校教育の充実

- ・充実した学校教育を子どもに受けさせることができていると感じている保護者の割合は減少傾向

- ・納税活動推進事業を実施

- ・小中一貫教育・町田っ子カリキュラムを実施

- ・特別支援教育を実施

- ・eラーニングにおいて、利用状況を検証し、実施方法等の見直しが必要

- ・小学生・中学生に対する道路利用マナー向上啓発活動を実施

- ・学校給食事業を実施

- ・思春期精神保健相談における、関係部署とのネットワーク連携の推進が課題

- ・中学校給食において、献立の改善や試食会の開催によって、中学校給食のPRが必要

- ・子どもが野外活動やボランティアの活動に参加した保護者の割合は減少傾向

- ・普及啓発事業を実施

- ・体操教室を実施

- ・夏の工作教室を実施

- ・ウルトラティーンズ事業を実施

- ・子どもがよく集まる場所に広報をかけるなどの周知の方法や、新しい企画を生み出していく努力が必要

#### ④ 思春期の子どもの心と身体 の健康教育

### ○現状・主な実施事業等

#### ⑤ 体験活動から学ぶこと

### ○現状・主な実施事業等

課題の仮説…○子どもの認知や情緒を発達させ人格を形成していくため、家庭や地域での関わり方を啓発していくことが必要  
○学力だけでなく、子どもの発達段階に応じて、家庭や学校や社会で積極的な意識や態度を身につけている教育の充実が必要

# 重点目標

## Ⅱ-1 親になる力を身につける

### 個別目標

- 親スタート期を支える
- 子育て期を支える
- 男女共同の子育てを進める
- 親の悩みを支える

#### ○現状・主な実施事業等

##### ① 親スタート期を支える

- ・妊娠健康調査の受診率は90%を維持している
- ・産婦健康診査の受診率は減少傾向
- ・育児支援ヘルパー派遣事業を実施
- ・母子保健訪問指導事業において、出生後の速やかな訪問のための人材確保と相談への適切な対応の実施が課題

・育児について気軽に相談できる相手がいなかったと答えた保護者の割合は減少している

- ・子育て支援ネットワーク連絡会を実施
- ・乳幼児・母性相談、来所相談、電話相談を実施
- ・児童・生徒の発達に関する医学的な情報を得るために早期に保護者と医療をつなげていくことが課題

- ・特別な支援を受けた児童・生徒の進路に関する情報を提供していくことが課題

##### ④ 親の悩みを支える

#### ○現状・主な実施事業等

#### ○現状・主な実施事業等

##### ② 子育て期を支える

- ・在宅家庭支援実施保育所数は増加している
- ・子ども家庭支援センターの相談件数は三年間で1.5倍以上に増加している
- ・健全育成事業を実施
- ・子どもセンターで子育て支援事業を実施
- ・病児・病後児保育を実施
- ・ショートステイ、トワイライトステイを実施
- ・子育て情報誌「のびっこ」を発行
- ・子育てひろば事業を実施

#### ○現状・主な実施事業等

##### ③ 男女共同の子育てを進める

- ・父子木工教室を実施
- ・父子料理教室を実施
- ・男女平等フェスティバルを実施
- ・両親学級において、医師との連携により妊婦を支援することが課題

課題の仮説…○母子の健康確保や育児不安の軽減を図る相談・支援体制は充実が図られてきており、引き続き子どもの豊かな成長と親になる力を身につけるための切れ目のない支援を推進していくことが必要。

# 重点目標

## Ⅱ－２ 親が働くことを支える

### 個別目標

- 保育支援
- サービスの質の向上と効果的・効率的な提供の充実

#### ○現状・主な実施事業等

##### ① 保育支援

- ・ 保育所定員数は増加し、保育所待機児童数は年々減少しているが、解消には至っていない
- ・ 認可外保育施設入所児童数は増加している
- ・ 預かり保育実施幼稚園数は増加している
- ・ ファミリー・サポート・センター利用件数は減少している
- ・ 3歳以上児の対応の施設の有効活用を図っていくことが必要

#### ○現状・主な実施事業等

##### ② サービスの質の向上と効果的・効率的な提供の充実

- ・ 定期利用保育事業を実施

課題の仮説…○保護者の就労を支えるため、待機児童の解消など引き続き保育サービスの質と量を確保していくことが必要  
○サービスの周知を図り、必要な人が適切に利用できるよう促進していくことも必要

# 重点目標

## Ⅱ-3 きめ細やかな支援が必要な家族を支える

### 個別目標

- 障がいのある子どもと家族への支援
- ひとり親家族への支援
- 外国籍家族への支援
- 被虐待児童（DV 家族児童を含む）と家族への支援

#### ○現状・主な実施事業等

##### ① 障がいのある子どもと家族への支援

・障がい児通園促進事業の対象となった幼稚園児数は増加している

・障がい児の幼稚園通園の促進を実施

・子ども発達センターすみれ教室を実施

・療育セミナーにおいて、講演内容や講師が固定化されており、参加者の感想・要望をもとに検討が必要

・関係機関との連携や、就学時の連携を密に取っていくことが必要

・子ども家庭支援センター事業を実施

#### ○現状・主な実施事業等

##### ② ひとり親家族への支援

・ひとり親家庭等医療費助成制度を実施

・児童育成手当を実施

・児童扶養手当を実施

#### ○現状・主な実施事業等

##### ③ 外国籍家族への支援

・言葉や生活習慣の違い等から不安を抱く子どもや、その家族から日本語学習支援や生活支援を必要とする相談が増えている

##### ④ 被虐待児童と家族への支援

#### ○現状・主な実施事業等

課題の仮説…○障がいのある子どもなどが増えている中、数の増加への対応だけでなく、家庭の状況などに応じたきめ細やかな支援に取り組んでいくことが必要。

# 重点目標

## Ⅲ-1 人と人が関わりつながる場をつくる

### 個別目標

- 地域の人材育成と人材活用
- 地元事業所・商店の関わり
- 体験できる場(多様な体験ができる機会を増やす)
- 交流できる場(子どもや子育てをしている人がふれあい情報交換できる場を増やす)
- 子どもセンター、地域子育てセンターを中心とした地域づくり

#### ○現状・主な実施事業等

##### ① 地域の人材育成と人材活用

- ・ひなた村まつり事業を実施
- ・木楽(きらく)に木育(もくいく)事業を実施
- ・アダプト・ア・ロード事業を実施
- ・まちだ市民大学講座事業を実施

・糸のこ教室において、平日日中の利用率向上とボランティア育成を目的に実施しているが、ボランティアの活用法が課題

#### ○現状・主な実施事業等

##### ② 地元事業所・商店の関わり

- ・子どもセンターばあんの「子どもまつり」を実施

- ・地域子育てセンター事業を実施
- ・地域子育てセンター事業において、訪問活動の優先度など効率化を進めるため、体制についても検討していくことが必要

- ・地域の子どもと大人と一緒に企画実施するイベントの充実を図ることが課題

#### ○現状・主な実施事業等

##### ③ 体験できる場

- ・冒険遊び場の数は増加している
- ・自分の子どもが野外活動やボランティアの活動に参加した保護者の割合は減少している
- ・多摩・島しょ広域連携活動助成金事業を実施
  - ・冒険遊び場への補助を実施
  - ・中学2年生の職場体験を実施
  - ・夏休み子どもフェアを実施
- ・地域の子ども会活動は衰退傾向にあり、地域の教育力確保のため、より充実した支援が必要

- ・子どもセンターの施設数は増加している
- ・子どもセンター・子どもクラブの1日平均来館者数は増加している
- ・地域子ども教室助成団体数は増加している
- ・地域子ども教室を実施
- ・子どもセンター・子どもクラブを実施
- ・親子ルーム開放における、整理整頓のルール周知と損耗した玩具の補充が課題

##### ④ 交流できる場

#### ○現状・主な実施事業等

##### ⑤ 子どもセンター、地域子育てセンターを中心とした地域づくり

#### ○現状・主な実施事業等

課題の仮説：○子どもが自然などに親しみ学ぶ機会や、子どもやその親が交流できる場の充実を図られてきており、こうした場や機会を活用した取り組みをさらに活性化させていくことが必要。

## 重点目標

## Ⅲ－２ 一人ひとりに情報が確実に届く

### 個別目標

○子どもと親への情報の確保

○現状・主な実施事業等

#### ① 子どもと親への情報の確保

- ・子育てひろばカレンダーの配布箇所数は徐々に増えている
- ・町田市公式ホームページ・キッズページを実施
- ・みんなのおでかけマップを作成
  - ・みんなのおでかけマップにおいて、地図情報を市内駅周辺から全域に広げ、全施設を地図へ掲載することが課題
  - ・より多くの読者に興味を持ってもらえるような紙面の作成と配布場所や配布方法など情報発信の手法の検討が必要

課題の仮説…○子どもや親に必要な情報が必要なときに届けられるよう、多様なメディアを活用した情報発信の充実が必要。  
○子どものインターネットやメールの安全な利用に対する周知・啓発が必要。

重点目標

Ⅲ-3 みんなで安全・安心のまちをつくる

個別目標

- 子どもの安全・安心の確保
- 子育てしやすいまちづくり

○現状・主な実施事業等

① 子どもの安全・安心の確保

・今住んでいる地域が、子どもが安全で健やかに育つ環境になっていると思う市民の割合は減少している

・「子ども 110 番の家」の箇所数は増加している

・子ども 110 番の家を実施

・交通安全講習などにおいて、社会情勢等に応じて教育内容を随時見直ししていくことが必要

○現状・主な実施事業等

② 子育てしやすいまちづくり

・「赤ちゃん・ふらっと」設置数は増加している

課題の仮説：○子育て世帯が安全・安心に暮らせる地域の環境づくりを進めていくことが一層求められる。